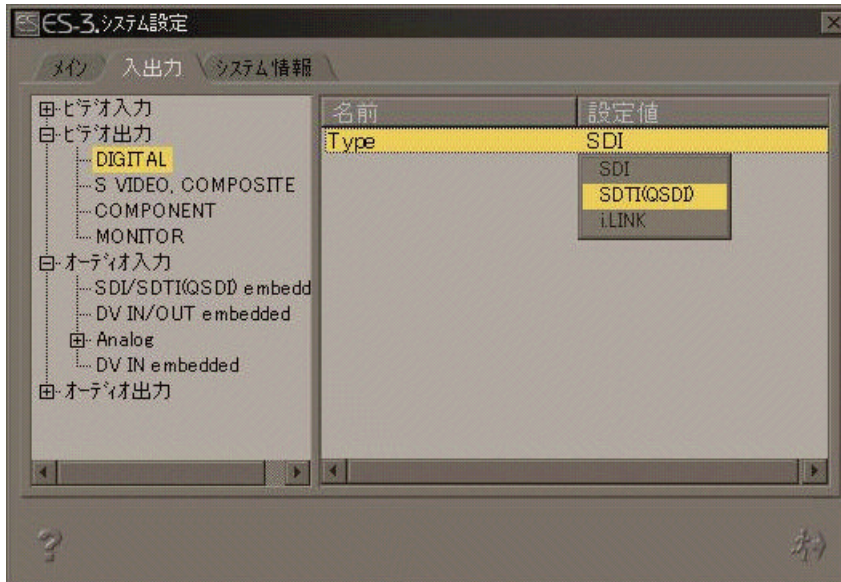


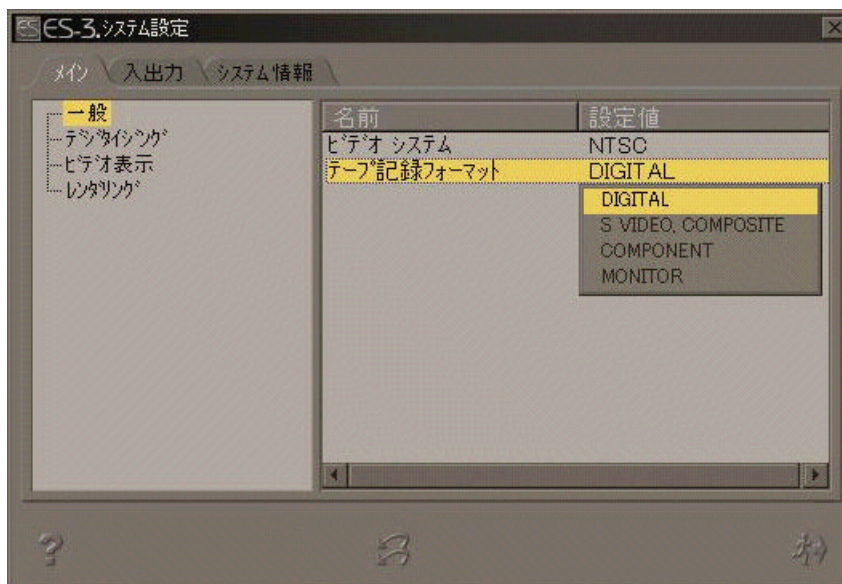
= E S - 3 V 1.2 リリースノート =

[. 新機能]

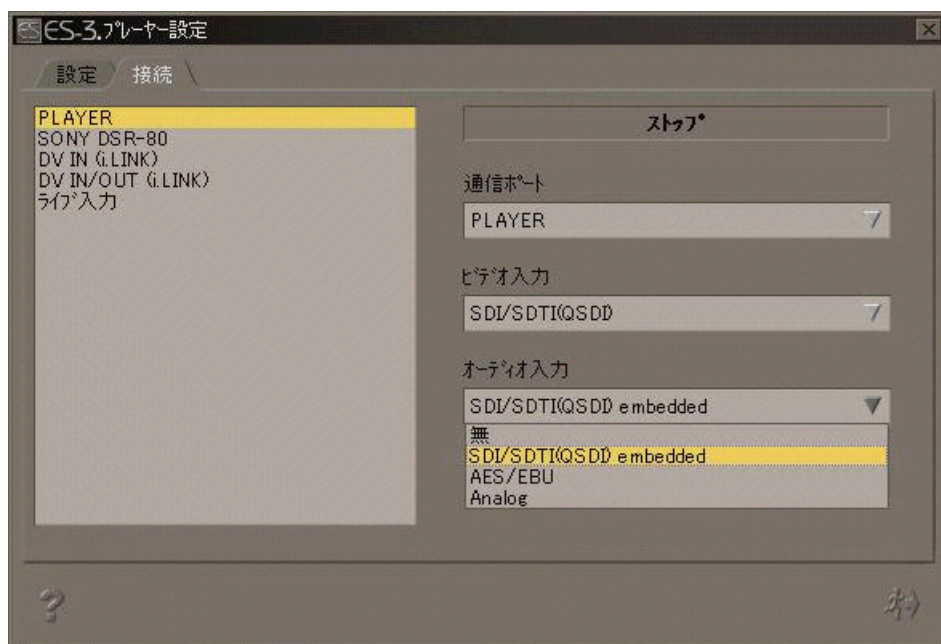
- 1 . SDI/SDTI(QSDI) 入出力サポート (EBK-3031 対応)が追加されました。



コントロールパネル	サイト	システム設定	入出力
ビデオ入力		SDI/SDTI(QSDI)	SDI, SDTI(QSDI)選択
ビデオ出力		DIGITAL	i.LINK, SDI, SDTI(QSDI)選択
オーディオ入力		SDI/SDTI(QSDI)embedded	Mute SDTI(QSDI) if not Play オンオフ



コントロールパネル	サイト	システム設定	メイン
テープ記録フォーマット		DIGITAL, S VIDEO, COMPOSITE, COMPONENT, MONITOR	(記録時のタイミング補正用)



コントロールパネル サイト プレイヤー設定 接続

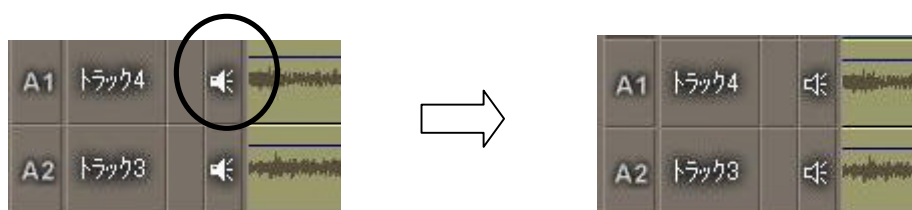
ビデオ入力 SDI/SDTI(QSDI)追加

オーディオ入力 SDI/SDTI(QSDI)embedded 追加

2. オーディオスクラブ再生が出来ます。

オーディオ編集集中に編集点を探したり決めたりするとき、テープベースのリニア編集のような変速スピード再生ができます。オーディオスクラブ再生はマウス、キーボード、ESBK-7011 コントロールパネルのそれぞれから行うことができます。

オーディオスクラブ再生機能はキーボードの SCROLL LOCK キーを押すと有効/無効になります。シャトル時は常に有効になります。タイムラインでは スクラブ再生したいトラックのラウドスピーカーアイコンを SHIFT キーを押しながらクリックします。スクラブ再生機能が有効になったトラックのアイコンが反転表示になります。さらに、シフトキーを押しながらクリックして同時に2トラックまで選択できます。既に2トラックのスクラブ再生が有効な場合は先に選択されていたトラックが無効になり一番最後に選択したトラックが有効になります。クリップビューアー、ソースビューアー、タイムラインのいずれから再生しても同時に聞くことができるのは2チャンネルです。



元に戻すには もう一度 SHIFT + クリック

3 . キーボードからトリム、クリップ等の移動ができます。

キーボードを使って編集点のトリムをすることもできるようになりました。シングルトリム、デュアルトリム、スリップモードがそれぞれキーボードから、以下の様にしておこなうことができます。

- ・ CTRL (コントロール) + 右矢印 / 左矢印 で1つまたは複数の編集点を1フレームずつ右 / 左へトリムします。
- ・ CTRL (コントロール) + SHIFT (シフト) + 右矢印 / 左矢印 で1つまたは複数の編集点を10フレームずつ右 / 左へトリムします。

キーボードから編集点をトリムするには、エディットモードにして、トリムしたい部分のマークイン・マークアウトをクリックして選びます。トリムしたい部分を複数選択するには SHIFT キーを押しながらクリックします。

例えばデュアルトリムをする場合には、まずアウトクリップのマークアウト部分をクリックし、SHIFT キーを押しながらインクリップのマークイン部分をクリックします。これでキーボードの矢印キーでフレーム精度のトリムができます。

このほか、異なるトラック上にある複数のクリップのトリミングを同時に行うこともできます。SHIFT キーを押しながら編集点を複数選択してください。(タイムライン上に複数箇所散らばって選択できます。) 複数のクリップを同時に同期のはずれることなくトリムすることができます。

また同様にしてタイムライン上のクリップを移動することもできます。これは、クリップのビデオとオーディオを同期させたいときに便利です。例えば移動させたいクリップを1つまたは複数選択し CTRL + 矢印または、CTRL + SHIFT+ 矢印キーで選択したクリップを移動します。

さらにトランジションの位置をキーボードから移動させることができます。

位置の調整は、トランジションの開始点を基準に行います。移動中はビデオモニターにトランジション開始点の画像が表示されますので、画像をもながら確認ができます。

エディットスタイルによりキーボードから行うトリミングの結果は異なります。取扱説明書の『タイムラインでの操作』『トリムエディター』を参照してください。

なお複雑なトリミングを行う場合はトリムエディターを使うことをお勧めします。トリムエディターを使うとクリップの選択をさらに詳細に指定することができるうえ、2つのインレイにより分かり易くトリミング操作を行うことができます。

トリムエディターのキー操作

トリムエディターからも次の様なキーボードからの操作ができます。

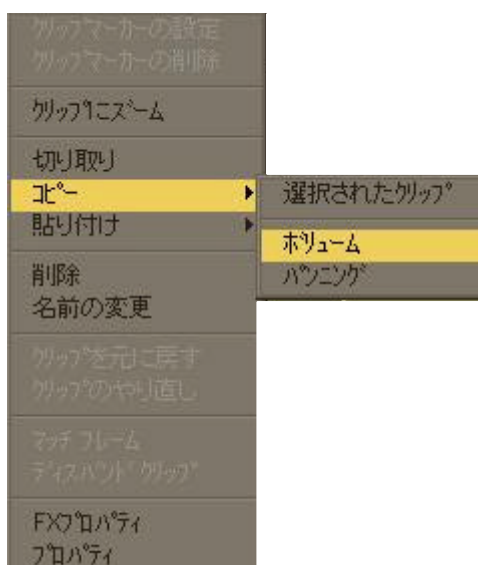
- ・ 右矢印 / 左矢印 で1つまたは複数の編集点を1フレームずつ右 / 左へトリムします。
- ・ CTRL (コントロール) + 右矢印 / 左矢印 で1つまたは複数の編終点を10フレームずつ右 / 左へトリムします。
- ・ キーボードのショートカット機能について詳しくは取扱説明書の『カスタマイズ - コントロールパネル - キーボード設定』を参照してください。

4．コントロールパネルのシャトルダイヤルで クリップビューアー／ソースビューアー／タイムラインのスクロールが出来ます。

ESBK-7011 のサーチダイヤルを使って、シャトルモードでタイムラインをスクロールすることができます。このとき、オーディオスクラブのための音声トラックが設定してあると、映像のみでなく音声も再生しながら希望する編集点をすばやく見つけ出すことができます。

5．オーディオクリップの ボリュームとパンorama設定を他のクリップにコピー

クリップのボリュームやパンニングの設定を（クリップボードに）コピーし他のクリップに貼り付けることができます。



コピー

クリップのショートカットメニューを開き、コピーのサブメニューのボリュームまたはパンニングを選択し設定をコピーします。

貼り付け

クリップのショートカットメニューを開き、貼り付けのサブメニューのボリュームまたはパンニングを選択し設定を貼り付けます。

6．マークイン/アウトで範囲指定して、オーディオのキーフレームを削除

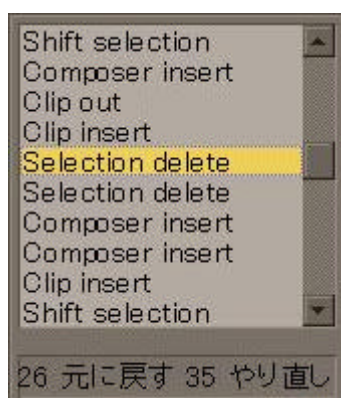


マークイン・マークアウト間にあるキーフレームを削除できるファンクションキーがオーディオエディターのツールバーに追加されました。ボリュームやパンニングに設定したキーフレームを削除する場合に便利です。まずパンニング表示またはボリューム表示を選択し表示させます。タイムライン上任意のポジションをマークイン・マークアウトしファンクションキーを押すとマークイン・マークアウト間にある、編集対象としてアクティブになっているトラック上のキーフレームがすべて削除されます。非アクティブトラック上のキーフレームに影響はありません。マークイン・アウト間にあるキーフレームを削除すると削除された部分のボリュームやパンニングはマークイン・アウト前後のキ

ーフレームにあわせて設定されます。前後にキーフレームがない場合は 初期値になります。マークイン/アウトを指定せずにこのアイコンをクリックするとタイムライン上の全てのオーディオのキーフレームが削除されます。

7. UNDOリストの表示機能

CTRL (コントロール) + SHIFT (シフト) キーを押しながら、“元に戻す”(Undo) アイコンをクリックすると下図のような Undo リストが表示されます。複数ステップ前の状態に一度にもどりたいときは、この表を参照して希望する個所をクリックすることで、一気にその時点にもどすことができます。



CTRL + SHIFT + UNDO ボタン、選択せずに抜けるには ESC

8. バッチデジタイジング中に オーディオツールでレベル調整可能

バッチデジタイズ中にオーディオレベル調整ができます。調整したい場合は予めオーディオツールを開いておきます。

9. テープに記録中に オーディオツールでレベル調整可能

テープに記録中にオーディオレベル調整ができます。



10 . EDL のインポートに Avid Media Log を追加

メディアログを用いて作成されたロギングリストを ES-3 に読み込みバッチデジタイズすることができます。インポートしたロギングリスト (.ALE) にはタイムコード、トラック、リールネーム等のクリップ情報が含まれます。[スタート]メニュー、[ツール]、[EDL の入力]の順で選択しファイルの種類から.ALE を選択します。プロジェクト内にラックの入ったフォルダーが読み込まれ、フォルダの中にあるロギングされたクリップをバッチデジタイズすることができます。

11 . Filter Editor に ぼかし機能追加 (Gaussian Blur)

フィルターエディターに'ぼかし'(Gaussian ブラー)という新しい効果が追加になりました。



半径：ぼかしの強度を調整します。値が大きいほど、強い“ぼかし”が入ります。

両方向：水平、垂直の両方向に“ぼかし”効果をかけます。

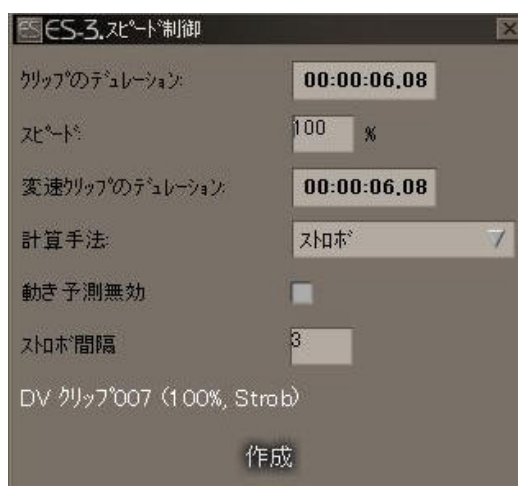
垂直方向：垂直方向にのみ“ぼかし”効果をかけます。

水平方向：水平方向にのみ“ぼかし”効果をかけます。



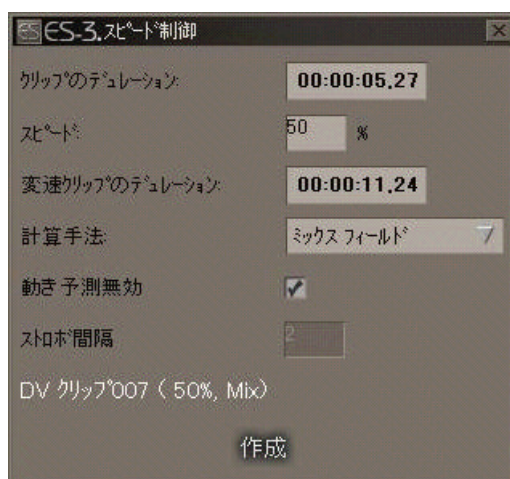
12. スピード制御に ストロボ機能追加

計算手法のプルダウンメニューからストロボを選択し、ストロボレートのボックスにフレーム数を入力して設定すると、入力したフレーム数毎に飛ばして再生されます。例えば3と入力すると3フレーム毎に1フレーム再生されます。これによりストロボ効果、3フレーム毎の再生ができます。



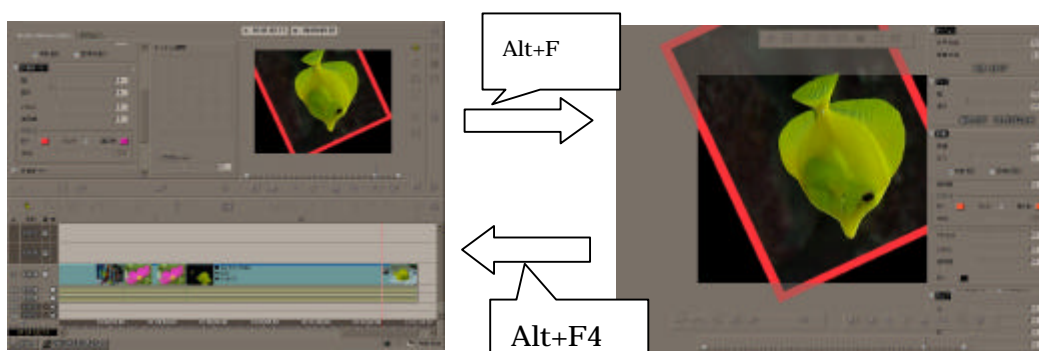
13. スピード制御に 動き予測無効 機能追加

スピード制御に 動き予測無効 機能が追加されました。コントラストが低いクリップに対して有効です。



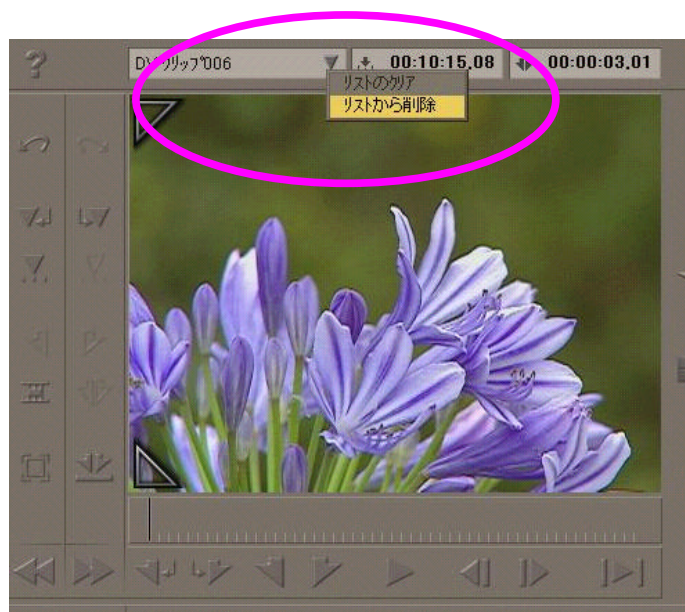
14 . エフェクトエディターでのフルサイズ表示

各種 FX エディター(モーション、カラー、フィルター、キー)の設定画面をフルサイズで表示することができます。FX エディターの画面が表示されているときに、キーボードの Alt+F キーを押すことでフルサイズ画面になります。元にもどすときには Alt+F4 キーを押します。フルサイズ画面にすることで、微妙な設定がしやすくなります。

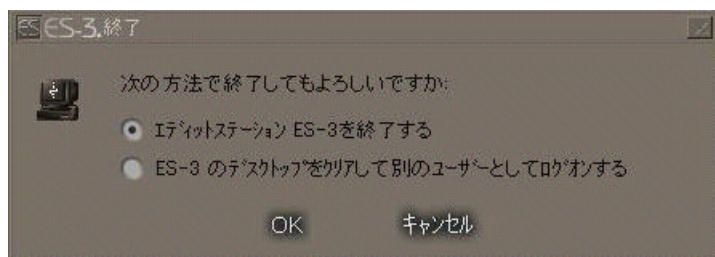


15 . ソースビューアーのインレイリストから 個別のクリップを削除

ソースビューアーのインレイリストから 個別のクリップを削除することが出来ます。右クリックして表示します。



16 . ALT + F4 で ES-3 の終了ダイアログの表示



17 . 日本語ヘルプ (オンラインマニュアル、オンラインヘルプ) 追加

18 . 中国語メニューの追加 (ヘルプは英語)

19 . Adobe Acrobat Reader 4.0 の インストール

インストール前に 3.0 のプログラムのアンインストールが必要です。

【仕様変更】

1. ユーザープロフィール登録機能は搭載されません。現在のマニュアルには記載されていますが、改版の機会に削除します。

2. タイムラインのツールバー上のごみ箱アイコンのデザインが変更されました。マークイン/アウトで囲まれた部分にのみ有効であることを明確にしました。

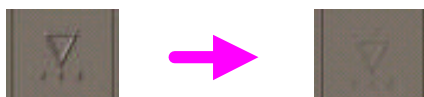


3. キーボードのショートカット ALT + CTRL のアトリビュートへの割り付けを禁止しました。

4. ビュースイッチャーで画面表示を切り換えるとき、Ver.1.0 では目玉のアイコンにマウスのポインターを重ねるだけで開きましたが、クリップをドラッグしていないとき不用意に開かないように目玉のアイコンをクリックして開くように変更しました。



5. クリップビューアー/ソースビューアー/マスタービューアー上で、マークイン/アウトがないときやマーカー位置にカーソルがないときは、マーカーの削除アイコンを無効化表示するようにしました。



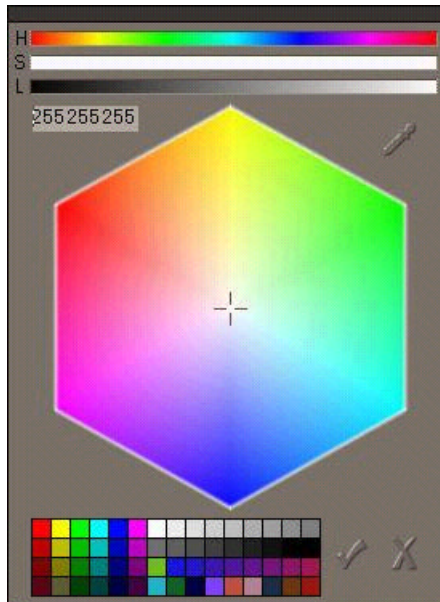
6. VTRが STILL/STOP/EJECT のときは、常に音声をミュートするよう変更しました。

7. ライブ入力に対しては 常に ミュートしないよう変更（カメラ入力対策）しました。

8 . N T S C セットアップの開始位置を 20H ==> 21H に変更しました。

9 . レンダリングの計算手法を R G B から Y U V に変更しました。

1 0 . カラーマットクリップとエフェクトエディターの 色選択ダイアログを共通化しました。



1 1 . ロギングツールで V を非選択の場合、オーディオのみのクリップであることがすぐ判るよう、インレイの表示をスピーカマーク表示にしました。 モニターアウトは従来通り、ビデオも出力されます。

[改善項目]

- 1 . タイムラインでマウスのホイールを押しながら回した場合に 10 フレームジョグが出来るようにしました。
- 2 . マークアウトとデュレーションからマークインを計算できるようにしました。
- 3 . マークイン、アウト、デュレーションのどれか 1 つを変更した場合、残りの 2 つのうち常に古いほうが更新されるようにしました。
- 4 . キーボードの 1 ~ 5 のキーで ロギングツールの A 1 ~ V を オン/オフした時も、結果が正しくデジタイズに反映されるようにしました。
- 5 . キーボードのショートカットで ALT, ALT + SHIFT のアトリビュートを持つ設定を削除できるようにしました。
- 6 . オーディオエフェクトが複数タイムラインで使用されていた場合、最初の 1 つしか効果が反映されませんでした。が、複数個でも正しく反映されるようにしました。
- 7 . 1kHz の トーンクリップを同時に 4 つタイムラインに貼った時、 3 つだけしか出力されませんでした。が、正しく出力するようにしました。
- 8 . オーディオエディターの ラウティングのカスタム設定を保存できるようにしました。
- 9 . オーディオキーフレームの設定変更が すぐ反映されるようにしました。
- 10 . DSR-70,80,85 で VTR のエディットモードが ON のときのデジタイジング、OFF のときのストライピングにおいて、 3 フレーム精度がずれていましたが、修正しました。
- 11 . テープへのビデオインサート時、正しい値の VITC がインサートされるようにしました。
- 12 . ES-3 CG で左右のメニューが時々表示されない問題を改善しました。
- 13 . ES-3 CG で イタリック体の文字をリサイズしたとき、時々文字が乱れる問題を改善しました。
- 14 . ES-3 CG で 日本語のページ名入力の際、入力ボックス内の文字表示が正しく表示されなかった問題を改善しました。

15. ES-3 CGで 'F2' (フォントプリセット) を2回押すと、ダイアログが無表示になるのを改善しました。
16. ES-3 CGで 円のシャドー/キャストを変更すると、円が小さくなってしまふのを改善しました。
17. ES-3 CGで キャストの透明度変更の ダウンスピンボタンがうまく働かないのを改善しました。
18. ロギングツールでデジタイズにPCの時間を使用したときのフレーム桁の表示を改善しました。
19. 日本語での ユーザー名の登録を可能にしました。
20. 新規ユーザーを登録したときにハングアップすることがあったのを改善しました。
21. N T S Cドロップフレームのタイムラインのスタート時間を 1:00:03,18 から 1:00:00,00 にしました。
22. Quicktime の 出力が出来るようにしました。
23. DSR-200 の 外部音声入力で記録されたテープを i.LINK で再生したとき音声ミュートされるのを改善しました。
24. オーディオエフェクトが複数使用されたクリップの FX プロパティの表示を正しくしました。
25. オーディオクリップをディスバンドしたとき ボリュームやパノラマの設定がリセットされず正しく反映されるようにしました。
26. N T S Cで DF、NDF 混在の EDL が 入力できなかったのを改善しました。
27. コントロールパネル システム設定で、オーバースキャンアンダースキャンの設定が正しく反映されるようにしました。ただし 各ビューアーで個別設定している場合を除きます。
28. WIPE/MOTION のトランジションエディターで、ソースの交換機能が 正しくレンダリングに反映するようにしました。
29. テープに記録直後 コントロールパネルでレコーダーを操作できない場合があったのを改

善しました。

30．テープにストライピングで記録する際、直前に内蔵のカラーバー等 (*.bsi)を再生していると イン点前のブラックが出ないことがあったのを改善しました。

31．プロジェクトの削除後、現在のシーケンスが表示/操作できないことがあったのを改善しました。

32．タイムラインのクリップを削除したときに、不要なスライス番号が表示されることがあったのを改善しました。

33．フィルターエディターのリモザイクで、サイズ調整時に下側がクロッピングされることがあったのを改善しました。

34．エフェクトエディターの設定メニューを複数開いてスクロールしたときに表示が重なることがあったのを改善しました。

35．オーディオエディターを設定中に 繰り返し再生をしたとき、繰り返し時に設定がリセットされてしまうのを改善しました。

36．クリップのショートカットのカスケード表示が デュアルモニター時に左右に分離してしまうことがあったのを改善しました。

37．Final Effect AP で 一部の効果が レンダリング時に半分の時間で実行されてしまうことがあったのを改善しました。

38．大きなプロジェクトや 長いシーケンスを扱う場合の時間を短縮しました。

39．クリップ/ソース/マスタービューアーで再生中にマークすると、再生が停止したのを 継続して再生するようにしました。

40．タイムラインで リアルタイムトランジションの前側のクリップの上のトラックに ビデオクリップを貼った場合、タイムラインの再生が出来なかったのを出来るようにしました。

41．シーケンス間のクリップのコピーが正しく行なわれるようにしました。

42．レンダリングのトランジションやクリップFX上に貼ったタイトルは、追加のレンダリングなしで実行するようにしました。ただしトランジションやクリップFXの全てにタイトルがかかっていることが必要です。

[制限事項]

- 1 . リアルタイムのスライドで一部のパターンで動作がスムーズでなかったり周辺に黒い枠が付く場合があります。このような場合はモーションエディター（トランジション）で、効果を作成してください。
- 2 . Gen Lock の サブキャリアが 発振します。Gen Lock は Off にして使ってください。
- 3 . オーディオのパノラマは デフォルトでオンになっています。必要に応じてオーディオエディターでオフにして使ってください。
- 4 . グループやステレオモードでインサートされたクリップに対して、パノラマのラインを記録すると、記録中の音声为正しくないことがあります。記録後に再生して確認してください。確認の結果問題があればモノラルにディスバンドして記録してください。
- 5 . パノラマがオンの時は オーディオラウティングで、設定しているサブミックスと設定していないサブミックスとの間で、パノラマになります。
- 6 . オーディオエフェクトを再生しながら調節する場合は、先に再生または繰り返し再生にしてからイフェクトエディターを開くか、コントロールパネルのボタンで再生や停止を行なってください。
- 7 . テストパターンとして内蔵している カラーバー等のクリップ (*.bsi)とアルファチャンネル付きのタイトルやグラフィックファイル (*.tga)を連続して再生することは出来ません。間隔をおくか、プロパティーでアルファチャンネルを使わないように設定してください。
- 8 . 8,12,16,24kHz サンプリングの ウェブファイル (*.wav)は インポートすることは出来ません。エラーメッセージが出ます。
- 9 . AES/EBU の出力を DSR-80/85 に入力した場合、DSR 側の AES/EBU ランプが点滅しますが、記録には影響ありません。
- 10 . 輝度(Y)の最大入出力レベルは 100IRE に設定されています。
- 11 . ロギングツールのビデオインレイに オーディオツールやビデオツールを重ねると、インデックスピクチャーにツールの画像が取り込まれてしまいます。但しデジタイズ後は正しい画像に更新されます。

12. 2台の i.LINK VTR を接続して一方を再生中、他方の電源をオンオフしたりケーブルを抜き差しすると、再生中の画像や音声にノイズがのります。

13. 同じVTRに対して 入力：SDI、出力：SDTI(QSDI) または その逆を選択した場合等、記録開始時に ‘デバイスが動作可能ではありません’ の表示が出ることがあります。このような場合には入出力に同じフォーマットを選択してください。

14. クリップ/ソースビューアーでのオーディオスクラブは CH1/2 のみです。グループまたはステレオでタイムライントラックに貼られたクリップは各トラック 1チャンネルのみです。

15. マスタービューアーのインレイ上のマーカー表示は、トラックの選択/非選択、モニターオン/オフ、クリップの削除/追加で消えることがあります。消えた場合マーカーの削除も無効になっていることがあります。再表示させるには GO TO マーカーを実行してください。

16. アルファチャンネル付きのタイトルやグラフィックファイル (*.tga)をビデオの一番下のトラックに置いた場合、再生されないことがあります。この場合、プロパティーでアルファチャンネルを使わないように設定するか上方のトラックに移動してください。

17. インターネットエクスプローラーは4.01、SP1を使用してください。インターネットエクスプローラー5.0を使用した場合、オンラインヘルプで ‘項目を表示’ をクリックする毎に、スクリプトエラーが発生します。(YES か NO で抜ければ正常に表示されます。)

18. DSR - PD100のインテリジェントアクセサリシューに接続した外部マイク入力はい.LINK 経由ではES - 3で認識することはできません。記録したテープを他のVTRで再生した場合も同様です。内蔵マイク (ミニジャックの外部マイク含む) を使用するか、i.LINK 以外のフォーマットでES - 3に入力してください。